

岡山発のオハヨー乳業が、金沢名産と初コラボ！人気上昇中のほうじ茶スイーツの新商品
加賀棒茶の上品な香り&濃厚なジャージー牛乳のとろける味わい
「ジャージー牛乳プリン ほうじ茶ラテ」を発売

2019年12月17日（火）より、全国で発売

オハヨー乳業株式会社（本社：岡山市中区、代表取締役社長：野津 基弘）は、希少なジャージー乳を贅沢に使用したミルクデザート「ジャージー牛乳プリン」シリーズの新商品として、冬限定の「ジャージー牛乳プリン ほうじ茶ラテ」を12月17日（火）から全国で発売いたします。



■商品特長（ここがポイント！）

- 金沢名産「加賀棒茶」の上品な香り味わいを活かした、リッチな味わいのとろけるデザート**
 近年人気上昇中の「ほうじ茶」のなかでも、“上品な香ばしさ”“まろやかな甘み”が特長で品質に優れた「加賀棒茶」を使用し、濃厚なミルクとあわせました。
 加賀棒茶は一般的なほうじ茶と異なり、お茶の茎を使用し、旨味を損なわないように浅く丁寧に焙じて作られます。今回発売する「ジャージー牛乳プリン ほうじ茶ラテ」はその旨味を活かした味わいを目指して開発。さらに希少なジャージー乳を贅沢に使用し、とろけるような食感&まろやかなおいしさに仕上げました。
- 和の文化が豊かな金沢にヒントをもらった市松柄の帯デザイン**
 商品名を表記した帯シールには、和柄の代表格ともいえる市松模様を採用。日本三名園の「兼六園」や、加賀友禅・金沢箔などの和の文化が今も生活に溶け込み、自然と風土が育んだ豊かな食文化を持つ金沢にヒントをもらったデザインです。
- 発売20周年のロングセラーシリーズ**
 オハヨー乳業の「ジャージー牛乳プリン」シリーズは1999年に発売。今年で20周年となるロングセラー商品です。発売以来、希少な素材を大切にしながら、食感や味わい、容器形態の改良を重ね、現在まで多くの方にご愛顧いただいています。

■ジャージー牛とは？

ジャージー牛は、英領ジャージー島原産の乳牛です。一般的な乳牛「ホルスタイン種」と比べて小柄な体格のため、搾乳量も少なく、国内の飼養頭数は全乳牛のわずか0.8%と希少な乳牛ですが、その牛乳は濃厚でコクがあり、味わい深いのが特長です。



■商品概要

商品名	ジャージー牛乳プリン ほうじ茶ラテ		
名称	洋生菓子	保存方法	要冷蔵（10℃以下）
内容量	115g	希望小売価格	145円（税別）
販売地域	全国		
発売日	2019年12月17日（火）		

■ ジャージー牛について



ジャージー牛は、英領ジャージー島原産の乳牛です。一般的な乳牛としてよく知られている白黒模様の「ホルスタイン種」と比べて、小柄な体格ですが、その牛乳は濃くて味わい深いという特徴があります。また人懐っこく愛嬌のある性格も特徴のひとつです。

ジャージー牛の飼養頭数は少なく、国内の乳牛のわずか0.8%と希少な乳牛ですが、1954年から導入した岡山県蒜山高原をはじめ、北海道や熊本（小国）などで主に飼養されています。

■ 乳牛の飼養頭数（平成31年1月現在）

種別	頭数（全国）	構成比
ホルスタイン種	1,351,000	98.7%
ジャージー種	11,259	0.8%
その他	6,858	0.5%
乳用牛計	1,369,117	100.0%



蒜山高原（岡山県）

（独）家畜改良センターホームページ（平成31年1月度）よりオハヨー乳業にて作成
<https://www.id.nlbc.go.jp/data/toukei.html>

■ 牛乳の違い（ホルスタインとジャージー）

ホルスタイン種と比較すると、ジャージー種は体格が小柄で搾乳量も少ないですが「乳脂肪分」「乳たんぱく」「無脂乳固形分」のすべての項目で上回っています。これが、濃厚でコクのあるおいしさにつながっています。

種別	平均搾乳量（kg）	乳脂肪分（%）	乳たんぱく（%）	無脂乳固形分（%）
ホルスタイン種	9,633	3.88	3.28	8.75
ジャージー種	6,468	4.89	3.88	9.28

家畜改良事業団・平成29年度検定成績よりオハヨー乳業にて作成（305日2回搾乳）